



## 馬 耳 東 風

少し古い話題で恐縮であるが、今年4月12日朝のテレビに釘付けになり、松山英樹のマスターズ・トーナメント（以下マスターズ）の優勝に興奮した。これまで日本の有名な男子選手の誰も成し遂げられなかった「メジャー」の制覇である。この優勝で松山は、生涯マスターズに招待される特権を得た。男子ゴルフのメジャーは、マスターズ、PGA選手権、全米オープン選手権とジ・オープン選手権の4つであるが、マスターズだけが毎年同じオーガスター・ナショナルゴルフクラブで開催されている。マスターズに招待される選手は、前年度の世界各地のツアーでの賞金ランキング上位者、メジャー優勝者等のトップクラスのプロ選手で、まさにゴルフの名手（マスター）達しか参加できない。この他に全米や全英等のアマチュア大会の優勝者にも招待枠があり、これにより2011年の大会に大学2年生であった松山が招待された。この年松山は初めての出場ながら27位となり、アマチュア選手のなかで最も成績の良いローアマチュアを獲得している。ひょっとすると松山にとって相性のよいコースなのかもしれない。

マスターズの優勝者には優勝賞金と緑色のプレザーが送られるが、「グリーンジャケット」と呼ばれている。ホールアウト後のテレビインタビューと表彰式で前年の優勝者から着せてもらうセレモニーが行われる。表彰式でグリーンジャケット姿の松山が両手を突き上げた喜びの姿は印象的であった。本来なら優勝を決めるパットが入った瞬間にガッツポーズをしたかったのだろうが、パーパットを外したため素直に喜びを表現できなかった

ようだ。

今回の優勝は、3日目にスコアーを伸ばし、2位に4打差をつけたのが大きかった。3日目ははた目からでも伸び伸びとプレーしているのが分かったが、最終日の後半は緊張のためかボギーとなるホールが目立ち、ヒヤヒヤさせられた。一流選手でも普段入りそうもない長いパットが入ったり、OBかと思ったボールが木に当たり戻ってきたりする幸運が優勝をもたらすことがある。ゴルフの女神が微笑んだともいわれる。

松山が優勝するまでは人並み以上の努力があったものと敬意を表したいが、あえて苦言を呈したいことがある。それは表彰式でのスピーチを英語でしなかったことである。アメリカを主戦場として8年間ゴルフをしており、これまでも5回の優勝経験もありながら、英語でのスピーチができないのかと残念に思ったのは私一人ではないはずである。日本の女子ゴルフで外国の選手が優勝し、片言であっても日本語でスピーチをする選手には親近感を覚えるものである。これからも海外でプレーし、優勝する機会もある松山には英語でのスピーチを期待したい。

さて、毎年マスターズの開幕前の恒例行事の一つであるチャンピオンズディナーがクラブハウスで開かれている。歴代優勝者（紳士）が集うディナーで、前年の優勝者がメニューを決めるとのことで、来年松山がどのようなメニューにするか興味を持たれている。紳士たちのディナーで、料理も会話も十分に楽しむことができれば、マスターズチャンピオンとして長く尊敬される選手になれるはずである。

(平)